

# 肺がん 免疫チェックポイント阻害剤 アクセスと中止に関する情報収集

## 調査背景・目的

今後、肺がん領域では、免疫チェックポイント阻害剤と従来の化学療法の併用などが新たに承認される可能性が高く、治療選択がより複雑化することが予想される。臨床医が提示する治療・決定の過程・投与中止に至った理由などはプライマリー・リサーチやセカンダリーデータでは把握が難しい。これらの情報を経時的に把握し、変化を確認することで、プロモーション活動に繋げることで、また、決定・中止のプロセスを見える化することで、より良い医療に繋げることを目的とする。

## TOPIC

- ✓ 1次治療で患者さんへ提示される治療選択肢は1種類のみが多い。これは、PD-L1発現に関わらない。2次治療では、複数種類が提示される傾向。特にPD-L1発現1-49%の患者さんは複数種類提示される割合が高い。
- ✓ 「処方」につながる、最初のステップは医師から患者さんへ提示される選択肢にあがることである。今後、より複雑化する治療戦略の中で「患者さんに提示されるレジメン」の変化に注目することが重要になってくると考えられる。
- ✓ 医師によって提示されたが、患者さん・ご家族の希望で実際の処方に至らない場合が、1次・2次治療ともに3割程度。理由は重篤な副作用や医療費が高額など。
- ✓ 処方機会を逃さないよう患者さんやご家族の懸念点解消も、今後は考慮していくことが望ましい。
- ✓ 免疫チェックポイント阻害剤の投与中止理由は、がんの増悪(PD)が最も多く、上記の“非処方理由”と異なり「患者・家族の希望」は少ない。PDは「免疫関連(immune-related)ではなく、従来のRECIST」によって判断されていた。

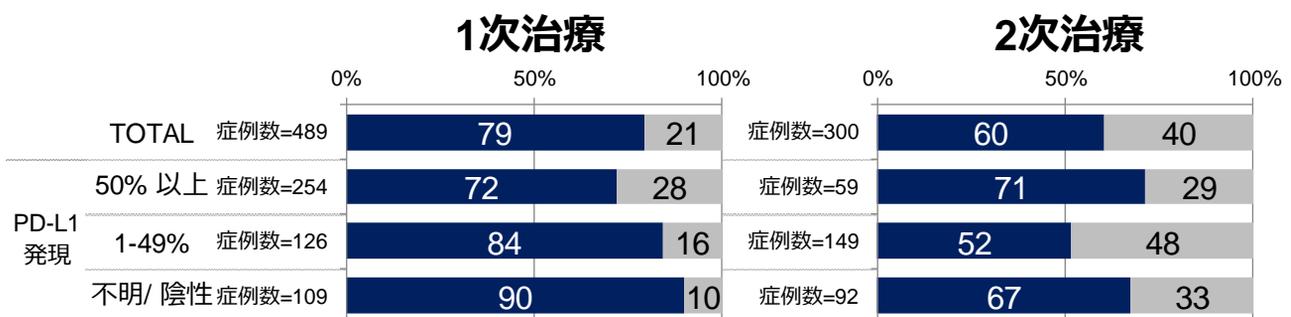
## 調査概要

手法：インターネット調査（全国）治療選択肢提示は最大5症例、中止理由は最大3症例記入にて聴取  
対象：100床以上の施設に勤務している呼吸器内科/外科、腫瘍内科の医師  
有効回答数（医師数）：243サンプル 調査期間：2018年8月27日～9月3日

## 調査結果

### PD-L1発現別、患者さんに提示したレジメン数

■ 1種類のみ提示 ■ 複数種類提示



PD-L1発現別、患者さんに提示したレジメン詳細

PD-L1発現	1次治療			2次治療		
	50% 以上	1-49%	不明/ 陰性	50% 以上	1-49%	不明/ 陰性
	症例数=254	症例数=126	症例数=109	症例数=59	症例数=149	症例数=92
	0% 50% 100%	0% 50% 100%	0% 50% 100%	0% 50% 100%	0% 50% 100%	0% 50% 100%
ニボルマブ	4	7	2	25	58	42
ペムブロリズマブ	91	7	1	42	42	7
アテゾリズマブ	2	5	3	7	23	35
プラチナ・トリプレット	13	31	20	10	5	2
プラチナ・ダブルット	22	66	74	32	17	4
ドセタキセル+ラムシルマブ	0	0	0	14	35	36
化学療法単剤	4	12	15	17	25	32
その他	0	0	1	0	0	0

免疫チェックポイント阻害剤3剤：  
患者提示後、処方に至らなかった理由

■ 主治医の判断 ■ 患者・家族の希望 ■ その他

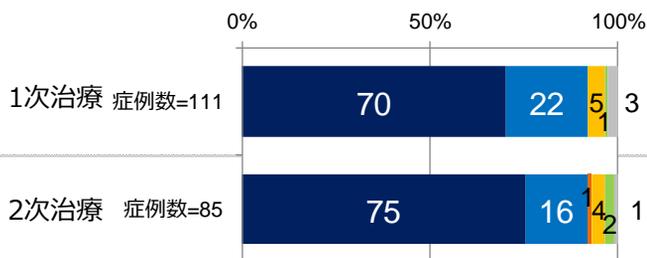


免疫チェックポイント阻害剤3剤：  
処方に至らなかった理由  
患者・家族の希望、回答例

重篤な副作用が怖い  
治療効果が不安  
医療費が高額で、支払いが難しい

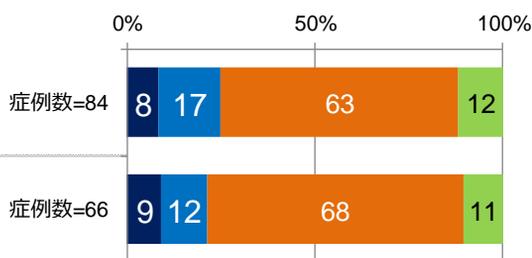
免疫チェックポイント阻害剤3剤：  
投与中止理由

■ 癌の増悪 (PD) ■ 有害事象  
■ 患者・家族の希望 ■ 全身状態の悪化  
■ 合併症の悪化 ■ その他



免疫チェックポイント阻害剤3剤：  
投与中止理由 PDの内訳

■ immune-related response criteria (irRC) PD  
■ immune-related RECIST (irRECIST) PD  
■ RECIST PD  
■ いずれのPDを超え、症状あり  
■ その他



株式会社アンテリオ [www.anterio.co.jp](http://www.anterio.co.jp)

本調査に関する  
お問い合わせ

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ13階 電話：03-5294-8393 (会社代表)

オンコロジー領域のことなら

ファーマ・ソリューション事業部 オンコロジー領域専門グループ  
メール：ant-onc@anterio.co.jp

